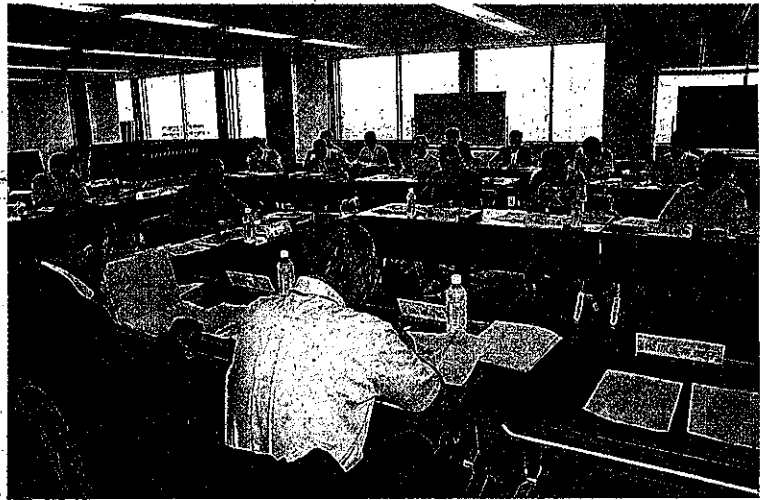


苫小牧市民報

8月19日
水曜日

公共性重視を再確認

苫小牧市民ホール建設 4回目の会合開く



老朽化が進む苫小牧市民会館の建て替え、複合施設化に向け、有識者や公募市民が意見交換する「苫小牧市民ホール建設検討委員会（仮称）」は18日、市役所で4回目の会合を開いた。特定の利用層のニーズに偏らない、公共性の高い施設づくりの必要性を再確

複合化が検討される施設の職員が傍聴する中、市民ホール（仮称）について議論

認した。検討委は公募市民や舞台技術の専門家、吹奏楽団員など7人の委員（任期1年）で構

成。来年3月までに市民会館を含む、新しい複合施設の基本構想をつくる予定だ。

この日も前回に続き、北海道大学院工学研究院による他都市の複合施設の事例報告を基に議論。岐阜県可児市にある公共劇場の文化創造センターが、一部の愛好家にとどまらず、文化活動が身近ではない市民にも向けた利用促進活動をしている点を参考に、改めて公共性について意見交換していくことを確認した。

委員からは市民の創作活動をより活性化するために「受け身ではなく、市民が自分のやりたいことを実現できる環境づくりが施設の個性になる」との提言もあった。

事務局の市市民ホール建設準備室に対しては、今後の議論を左右するとして、新しい施設の設定場所を「早期に決めてほしい」との注文が出た。

今回は初めて、複合化の検

討対象となっている科学センターや労働福祉センターなどの職員も傍聴した。